

**家庭・学校・地域の教育機能の活性化と連携を図ること**

近年、青少年の生活や教育環境の変化によって、家庭における日常生活、学校における教育活動、地域社会における様々な活動等において、生涯学習の基盤となる教育機能の低下が指摘されている。

そのため、青少年の心豊かな人間形成を図るには、家庭・学校・地域社会のそれぞれが、独自の教育機能を発揮するとともに三者が調和を保ちながら何をどのように分担し補完し合っていくかを十分検討し、連携を進めることが必要である。

その際、「青少年を健全に育成する」「親や大人自身が学ぶ」「地域に生き地域を育む」という視点に立って三者の共通理解のもとに、教育目的を同じくし、相互に均衡を保ちながら連携を進めていくことが大切である。

- (1) 家庭の教育機能の充実を図る。
- (2) 学校の教育機能の充実を図る。
- (3) 地域社会の教育機能の充実を図る。
- (4) 家庭・学校・地域の教育機能の連携を図る。

提言 8

**生涯学習の拠点となる生涯教育センターの設置の推進を図ること**

県政の指針では「心豊かな生き生きとした“ふくしま”の創造」を施策の基本目標としていることから、県民一人一人が、生涯にわたって生き生きと共に学び合う学習活動を奨励・援助するため生涯教育推進の拠点となる教育機関「生涯教育センター」の設置の推進を図る必要がある。

この「生涯教育センター」は、高度な情報通信機能と快適な学習環境を備えるインテリジェント化された、次のような役割と機能をもつ施設であることが望まれる。

- (1) 人材の養成と活用の機能
- (2) 学習相談や指導の機能
- (3) 生涯教育関連事業の連絡・調整を推進する機能
- (4) 学習情報の収集と提供の機能
- (5) 広域的な学習機会を提供する機能
- (6) 調査・研究の機能
- (7) 新しい事業開発の機能
- (8) 学習方法開発の機能
- (9) 各種団体活動と会員相互の交流を促進する機能
- (10) 宿泊研修の機能

### 第3節 生涯教育データバンク・情報提供事業

教育資源を調査して、生涯教育に必要な情報を収集・整理保管するとともに、学習相談の実施及び情報提供のための基礎資料の作成・配布、テレビ・ラジオスポット放送等により情報の提供を実施した。

- (1) **教育資源調査**
  - ① 学習教材（視聴覚に関する学習教材）
- (2) **基礎資料集の作成**
  - ① 生涯学習ガイドブック「学習教材編」 2,000部
- (3) **生涯学習情報提供**
  - ① 広報紙「生涯学習ふくしま」 年4回 各10,000部
  - ② スポット放送
 

テレビ	年間	32回（各30秒）
ラジオ	年間	100回（各30秒）
  - ③ 学習情報「生涯教育関連事業情報提供」 4半期毎

### 第4節 生涯教育広域事業 「生涯学習県民講座」

#### 1 家庭教育講座

回	期日	会場	テーマ	講師	参加者数
1	10月14日(木)	飯館村飯館公民館	子どもをたくましく育てる家庭・学校・地域の役割	福島大学教育学部教授 小野 直広 義務教育課主任指導員 斎藤 正寛 桜の聖母短期大学助教 樋口 勝也	190人
2	10月20日(木)	矢吹町中央公民館	子どもの成長と父親の役割	県立矢吹病院診療部医長 大野 芳義 福島大学教育学部助教 河野 義章 矢吹町立矢吹中学校長 理崎 三郎	178人
3	10月30日(金)	いわき市文化センター	○これからのことはをどう教えたらよいか ○くらしに生かす放送利用と家庭教育	国語学文学博士 金田 春彦 双葉町社会教育指導員 浪江 安 NHK福島放送局放送部 近野 勇	740人 (NHKと共催)
4	11月10日(火)	喜多方市喜多方フラザ	○くらしに生かす放送利用と家庭教育 ○主婦の就労と家庭教育のあり方	全国視聴覚教育連盟事務局長 関口 勇 県立会津短期大学助教 佐々木篤信 郡山女子大短大教授 関口はつ江	165人 (NHKと共催)
5	11月16日(月)	三春町三春町公民館	国際化時代における家庭教育のあり方	福島大学経済学部教授 新家 健精 元県立好間高等学校校長 堀川 清通 三春町教育委員会教育長 武藤 義男	210人